

市長の

し
お
か
ぜ

通

信

暖かい春の陽気とともに、桜の花の便りが聞かれるうらかな好季節となりました。皆様は、既にお花見の計画など立てられているのではないのでしょうか。

さて、笠岡市では近年、市街化調整区域内の農村集落の衰退が著しく、周辺市町への人口流出が進むなどの問題が深刻化し、集落生活の維持や地域活性化のために土地利用の見直しが求められています。

特に、都市計画区域を市街化区域と市街化調整区域に区分する区域区分制度（線引き）については、必要性に対する疑問の声が高まっています。

こうした状況の中、市では平成十六年に笠岡市都市計画マスタープランを策定し、これからの土地利用方針として、人と自然、都市と農村が共存する笠岡らしさを活かした新しい土地利用形態である「共生型土地利用」を掲げました。

これを実現するために、庁内プロジェクトチームを中心として、具体的に今後のまちづくりの方向性につ

いて、線引きの必要性を含め、さまざまな角度から検討を重ねてきました。その結果、線引きを廃止し、より緩やかな代替方策で土地利用をコントロールしていく『あたらしい笠岡の都市計画（案）』を作成しました。この計画案に基づきまして、一月から三月にかけて市内十三地区で開催した説明会において、皆様から貴重なご意見を数多く伺うことができました。

今後は笠岡市のテーマであります「みんなで築く生活元気都市」の実現に向けて、市民の皆様とともに新しい都市計画をつくり上げてまいりたいと考えています。



笠岡市長 高木直矢

Hello, Amy! ハロー、エイミー

The rah-rah radish, part 1
(がんばれ がんばれ 大根 パート1)



白石島の寒い冬の数カ月間は、白くて細長い野菜というよりは武器にさえ見える大根に捧げられます。太さが10cm前後、長さが40cm足らずのダイコンには存在感があります。

大根には、乾燥させたり、細かく刻んだり、おろしたりと多彩な調理法があります。「鍋」料理にはどんな調理法でもいけるし、刺身のつまとして、またおろし大根としても美味しくいただけます。大根そのものの味は淡泊ですが、ほかの野菜と一緒に、またその風味と調和し、人を魅了してしまう野菜の代表でもあります。

「外国人」にとって大根は、せいぜい愉快に思うだけの野菜です。驚きなのは、いったい大根の何にそんなに熱狂的になるのか。大根は何より私たち人間よりも印象的な履歴書をもっています。

ダイコンのルーツは紀元前500年前までさかのぼります。日本人の先祖はおそらく大根でした。大根の大きさが腕の中に大事に抱えられる赤ん坊のサイズと一致することがただの偶然とは思えません。また、毎年12月にはダイコン祭りが開催

され、出席者に調理した大根がふるまわれます。

白石島では12月になると、たくさんの大根を乗せた手押し車をおばあちゃんが押し始めます。それがガンバレ・ガンバレ・ダイコンの始まりです。12月から1月にかけて、ダイコンは菜園から引っこ抜かれ家へと運ばれます。島の家の玄関先をよく見てみると、壁際に吊されているダイコンの頭の部分や、細かく刻まれ太陽の下で葎のマットの上に広げられ、乾燥させられている胴体部分を目にするでしょう。

最近の私と言えば、なんと外国人訪問者を大根畑に案内し、変わった被写体として特別なダイコンファミリーを紹介しているのです。気がつけば、私の中に潜む巨大物の知識が増えていたのです。そして、自分で大根を引っこ抜き、それが島内で一番大きな大根であるか確認するために、お寺まで持って行きました。私たちは大根のカツラのような葉っぱを押し上げながら、白石島に植えられている大根を観察してまわるのに、その日の午後全てを費やしました。また、ベランダで日光浴する大根も見かけました。棚の上で雑談している2本の大根の前を通りすぎ、玄関先の靴の横に腰掛けている大根も観察しました。

そうです、大根がただの巨大な家庭菜園に植えられている野菜ではなく、日本の家族の一員であることがますます明白になりました。